

子育てがしやすい元気な町づくり

若い世代が転入したい、住み続けたい栄町づくり

産業を活性化させ、働きやすい栄町づくり

目的

高齢者を支える若い世代の割合が少ないため、若い世代の転出者を減らし、転入者を増やしていく

現状と課題

【現状】

1. 就職や結婚、進学を機に転出してしまふ若者が多い。
2. 若い世代を受け入れるための住宅が不足しているため、駅南側の宅地開発事業の誘致に取り組んでいる。
3. 駅舎が老朽化に加え、駅の乗降客が少なくなっている。また、鎌ヶ谷本桒線BPの整備が進んでいる。
4. 成田空港の機能強化が進むことで、就職できる企業が増加している。一方、町内の工業団地は矢口工業団地だけのため、地元で就職できる場が少ない。
5. 外国人住民が増加し、成田空港や町内企業で働く外国人就労者も増加している。

【課題】

1. 町内での雇用が少なく、また、町内に高校や大学がないため、昼夜間人口比率が県内で一番低い。
2. 町内の市街化区域内には、住宅地開発が出来る土地が少ない。また、新たな住宅地開発する企業がない。
3. 駅周辺にスーパーなどの商業施設などがなく賑わいが無い。また、交通利便性が不足している。
4. 成田空港の機能強化により就職できる企業が増えているが、情報が不足している。また、土地利用規制が厳しいため、新たな企業誘致が上手く出来ない。
5. 外国人が就労しやすい環境が整っていない。また、町民としてトラブルなく日常生活が送れるような情報がない。

①若者が転入しやすい栄町づくり

1. 若い世代が住みやすい受け皿を整備する

2. 町のイメージアップを図る

3. 若い世代が転入しやすくなる支援に取り組む

②地元でいながら就職しやすい栄町づくり

4. 若者の就業機会を確保し転出者を抑制する

③通勤・通学がしやすい栄町づくり

5. 安食駅が利用しやすくなるようにする

④外国人も住みやすい栄町づくり

7. 外国人にも暮らしやすい環境を実現する  
企業の人手不足の解消

- 1-1 駅南側地区等への住宅地開発を促進
- 1-2 駅南側等へのアパートなどの貸家建築を促進
- 1-3 空き家計画に基づく空き家バンク制度の充実や空き家の活用の推進
- 1-4 地区計画を見直し、アパート建築が可能な環境を整備
- 1-5 安食駅～成田イオンへの新規バス路線運行の要請
- 1-6 駅前へのスーパーの誘導
- 1-7 町並み及び街路・緑道や公園の美化・整備

- 2-1 若者が注目するイベントを開催
  - ・シーズンイルミネーション
  - ・SAKAE リバーサイドフェスティバル
- 2-2 駅周辺施設の整備
  - ・駅舎の改築
- 2-3 町のPRの推進
  - ・LINEなどのSNSの活用
  - ・メディア等を活用した移住促進のPR
  - ・都内での移住促進PRイベントの開催
  - ・水辺を活用したレジャーや釣り観光のPR

- 3-1 若い世代の転入者支援制度を充実
  - ・若い世代の転入者への奨励金制度の拡充
  - ・大学生の通学定期代補助制度の検討
  - ・Uターン支援金の拡充
- 3-2 子育てしやすい環境づくり

戦略1と連携

- 4-1 新たな広域幹線道路の整備に合わせた沿道への企業誘致
- 4-2 地元企業等に就職しやすいように誘導
  - ・地元企業との連携による高校生や大学生の職場見学会・職場体験の支援
- 4-3 求人情報を収集しホームページ等で積極的に提供
  - ・地元企業の求人情報を提供
  - ・成田空港など地元から通勤できる企業の求人情報を提供

戦略2と連携

- 5-1 安食駅の機能向上
  - ・駅舎の改築 **再掲**
  - ・南北自由通路改修
  - ・駅構内乗り換え跨線橋へのエレベーター設置
  - ・ホームへの上屋設置促進
  - ・自動券売機の終日稼働の促進
- 5-2 成田線利便性向上の促進(増発等)
  - ・成田線活性化推進協議会での要望
  - ・千葉県JR線複線化等期成同盟での要望
- 5-3 駅周辺Wi-Fi環境の充実

- 6-1 国・県道の整備を促進する
  - ・鎌ヶ谷・本桒線BPの整備促進
  - ・安食交差点渋滞解消促進
  - ・成田イオン前～空港通りの渋滞解消促進
  - ・若草大橋延伸線の早期事業化を要請
- 6-2 主要幹線道路を活用する
  - ・印旛日本医大駅行バスの実証実験運行

- 7-1 外国人住民への情報提供不足を解消する
  - ・外国人暮らし情報の提供
  - ・窓口等への多言語翻訳機や窓口対応ロボットの導入の検討
  - ・外国語表記の看板設置
  - ・外国人と地域住民との交流イベント
  - ・外国人の日本文化体験
- 7-2 外国人も通勤しやすい新たな移動手段を確保する
  - ・印旛日本医大駅行バスの実証実験運行 **再掲**
- 7-3 国際交流協会設立支援

戦略での取り組み

- 駅南側地区への新たな住宅建築戸数  
5年間で75戸増加
- 若い世代(0歳～29歳)の構成比  
H31.4 19.97%⇒R6.4 20%
- 奨励金制度を活用した若い世代の転入者(0歳～39歳)  
5年間で800人(定住奨励金：H30 30人/年 Uターン支援金：H30 92人/年)

- アパート建築数(部屋数)  
5年間で80室

- 町内在住者の町内企業及び空港の雇用数の増加  
5年間で400人
- 求人情報提供企業数  
H30 60社/年⇒R6 80社/年

- 安食駅利用者数  
H29 5,064人⇒R4 5,000人

- 鎌ヶ谷・本桒線BPの開通  
R3年度中
- ※「印旛日本医大駅」までの移動時間を短縮  
R元 25分⇒R6 15分
- 安食交差点の渋滞解消  
R3年度に改良工事完了

- 外国人居住者の増加  
(H31.4.1現在 246人)  
5年間で50人増加
- 町内企業で働く外国人労働者数  
H30 52人⇒R5 100人